夢
刃
忍
ばい
ばつ
DOUJIN
R18
成人向け

「うわっ 日影さんのおっぱいハリありすぎ！
押さえつけも程よくて乳圧最高！」
ムギュ♥
ペロン
グイ
「なんや、胸で挟むだけでこないに硬くして
そんなにこれが気持ちええんか？」

「ん、なんやこんな苦しそうにして
ワシが目一杯しごいたるわ…」
「あああああ！ちょっとたんまたんま！
そんな急に激しくされたらヤバイってえ！」
ベロ
ベロ
パンパン
パンパン

「舌で亀頭舐められながら
そんなしごかれたら…イクっ！」
ビュルルル！
「んっ…出た出た…」

「はぁ・・はぁ・・日影さんのおっぱいマ◎コキツキツで我慢するとか無理・・・」
ドロ・・・
「胸でしごくだけでこない出して・・・ほんま情けないやつやなぁ」
フプッ
Aル・・

「上下で挟んでパイズリ♪
手で押さえれば乳圧も最高！」
グイ
ニュプ
スプ
「なんや、おもろい体位やな…」

「うおおお！普通のパイズリより裏筋めっちゃ刺激されて気持ちいい！」
パン！
パンパンッ
ズブ
「…ワシは何も感じへんけどなぁ」

「日影さんのキツキツおっぱいに中出しイクよっ！」
ドプッ♥
ビュー
ビルル
「んっ、やっとイッたか…」

「ふぅ・・上下のサンドイッチパイスリだと裏筋すれまくって最高・・・」
ズロォ・・・
ドプ・・
「またこないな臭い汁出しよってからに・・」

「なんや三人揃ってこんな勃起させて・・
抜かな治まらんっ・・・仕方ないなぁ・・」
ギュ
「うは！日影さんの舌テクやば！」
「パイズリも手で締め付けるとおっぱいに
チンポ完全に隠れちゃう♪」
レロ
チュプ♥

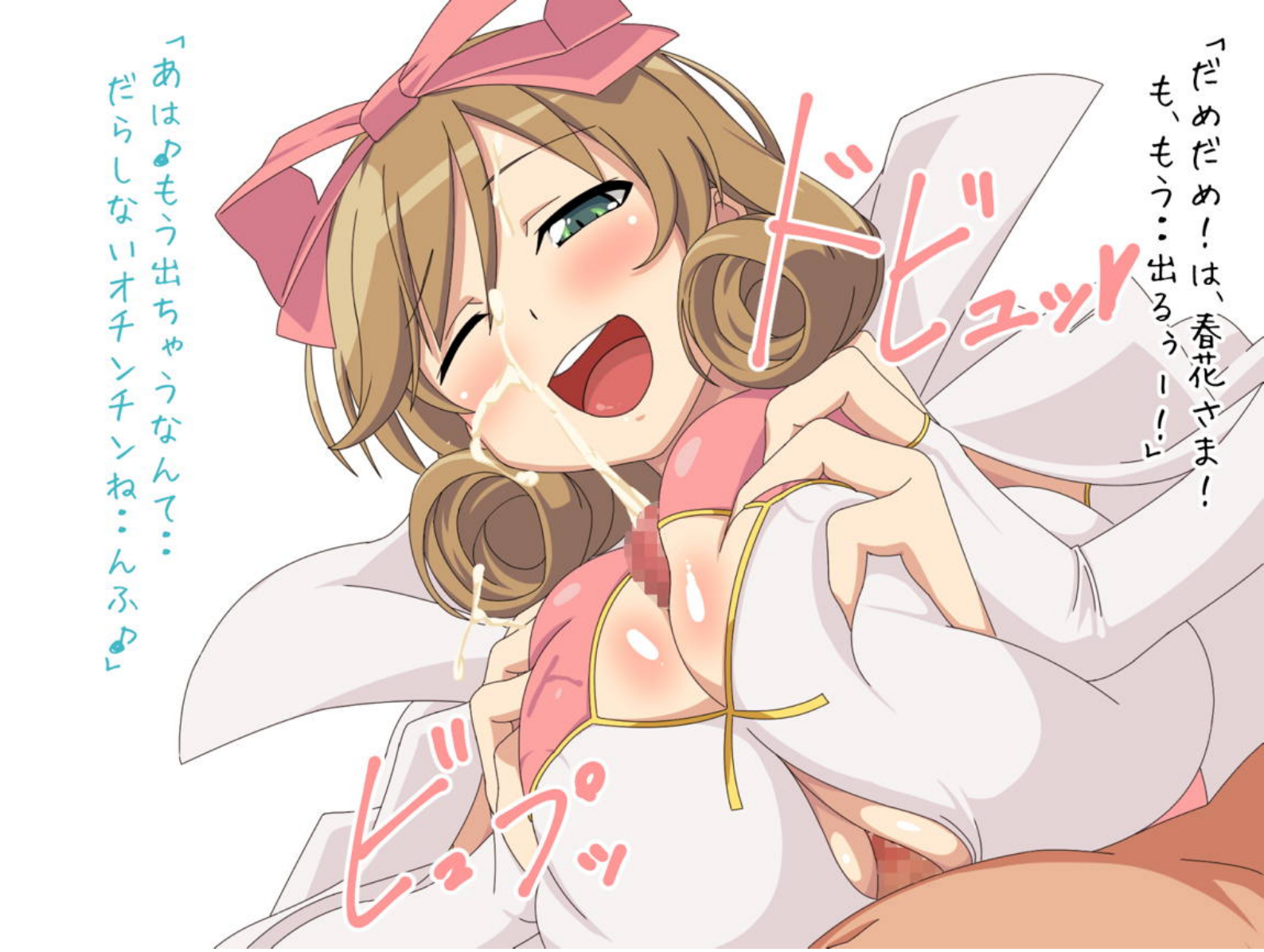
「おっぱいヌルヌルでチンポに絡みついて気持ちいい！」
「こっちも裏筋ペロペロされてそろそろやばい！」
「なんや、もうイキそうなんか、とんだ早漏やなぁ」
ペロ
ペロ
パパ

「ぎゅーぎゅーのちちマ○コにいっぱい出すよ！」
「こっちも日影さんの裏筋フェラでイクっ！」
ビュルル！
ドビュ
ドピュッ
「んっ！」

「はぁ・・はぁ・・エロ乳パイズリにザーメン全部持ってかれた・・」
「んっ?もうイッたんかほんま胸でしごくのが何が楽しいのか・・」
ドプ・・
ベロ~
ドロ・・

「春花様のおっぱいマ○コが僕のチンポを挟んでくださってるぅ！」
ンフ♥
「んふ♪ほら、こうしておっぱいを押さえつけると良いんでしょ？」
ギュウ♥

「あああ！春花様！そんな早くしごかれた出ちゃう！」
「ほらほら♪もうイキそうなの？良いわよ、イッちゃいなさい見ててあげるから♪」
パンパンパンパン


「だめだめ！は、春花さま！
も、もう・・出るぅー！」
ドビュッ
ビュブッ
「あはっ♪もう出ちゃうなんて・・
だらしないオチンチンね・・んふ♪」

「はぁ・・はぁ・・春花様のパイズリ最高
もうザーメンスッカラカンです」
ドロ・・・コプ・・
んふ♥
「んふ♪こんなにザーメン射精して・・
そんなに気持ちよかったのかしら？」

「何？こんなに揃いも揃って大っきくしちゃって…仕方ないから私が楽にしてあげるわ♪」
「あ、ありがとうございます！」
「ウッヒョー！春花様のエロ乳パイズリでいただきまーす！」
ギュッ
ギュッ♥

「ああ・・春花様のおっぱい柔らかいのにハリがあってちょっと挟んだだけで乳圧スッゲー・・気持よすぎるぅ！」
「んふ♪腰振って情けない顔ねチンポもギンギンでもうイキそうなんでしょ？」
ジコ
パン
ジコ
パン
ジコ
パン！

「春花様！も、もう気持よすぎて…出ます！」
ビュッ
「あは♪またこんな臭いのいっぱい出しちゃって…ダメなおちんぽさん達ね。」
ビュクッ
ドプッ

「もう…おっぱいドロドロ♪
これだけ射精すればもう満足かしら？」
ドプ♥
「は、はい…もうザーメン一滴残らず絞り出ました…
エロ乳マ○コ最高っす！」
ビク
コプ

「春花様の陥没乳首プニプニで気持ちいい！
裏筋スリスリするだけでイキそうだ！」
「パイズリもおっぱいキツキツでヤッベ！」
ズル
ギュッ
プニ
「あらあら・・」

「はあぁ春花のおっぱいスベスベぷにぷにで気持よすぎ！腰止まんないい！」
「あん・・そんな激しくしたらおっぱい壊れちゃうわ♪」
パン！
ズリ
ズッチュ
パン！

「あああ！春花様ぁ！
春花様の柔らか乳マ○コに出るっ！」
ビュルル
ドブッ
ビュッ！
「あぁん♪」

「はぁ・・はぁ・・春花様のエロおっぱいに搾り取られた・・・」

「あは♪すごい・・またこんなに射精して・・

ドロォ・・

ブプ♪

ビュルル・

「未来ちゃんのスク水ちっぱいとスベスベのたももに挿入う！」
「こんなの全然おっぱいに関係ないじゃない何こんなにガチガチにしてんのよ…」
ギュ
ニュプ♥

「な、何腰振ってんのよ！
それになんかさっきよりガチガチになってるし…」
ズリ
カワ
「スク水の生地と未来ちゃんの柔らかいお尻も
締り良すぎてやばい、腰止まんないよー！」
フル
カワ

「未来ちゃんの全身使ったマ○コでイクよぉ！」
「きゃっ！な、何これ！？なんか白いの出てるわよ！？」
ドプッ♥
ビュル

「はぁ…はぁ…未来ちゃんの
スク水太ももマ○コに搾り取られた…」
カク
カク
「うぅ…何なのよこれ、熱いし臭いし…
最悪……」
ハァ
ハァ
ドロ…

「うはっ 生で未来ちゃんの乳首でチンコしごけるなんて
スク水に挟んだだけでイキそう！」
ニュルニュル♡
みらい
ズルル…
「なんなのよこれ…ヌルヌルするしチンチンあっついし…
パイズリって本当にこうゆうものなの？」

「ちょっ、ちょっと…
う、動くんなら、もうちょっとゆっくりっ…」
「うわぁ…未来ちゃんの硬くなったちっちゃい乳首がカリに程よく引っかかって気持ち良すぎ！」
ハァ
ハァ
ズル
ズブ
ズブ
みらい

「乳首とスク水のサンドイッチ最高！
もう我慢限界だ！イクよ未来ちゃん！俺のザーメン
乳首でいっぱい感じてね！」
ドブッ♥
「ちょ、ちょっと待ちなさ…んっ！」
みらい
ドブッ

「はぁ・・はぁ・・乳首とスク水やばすぎる・・・
気持ち良すぎて腰のカ入んないわ・・・」
「またこんないっぱい・・・
うぅ・・く、臭い・・・」
ハァ
ハァ
みらい
ダラ～・・
ユプ

「未来ちゃんが俺のチンコを可愛いおっぱいで挟んでくれてるぅ！」
「水着破いてまでチンチン入れたいなんてどれだけヘンタイなのよ…」
んん…
ピト♥

「腰止まんねえぇ！未来ちゃんももっとおっぱいでズリズリして！手でシコシコしごいて！」
「んん・・すっごくビクビクしてきてる・・。」
チル
ズリュ
ジコ
ジコ

「あぁぁ！もう限界！
お手手とスベスベおっぱいにチンポしごかれて…イクっ！」
「きゃっ！
白いのいっぱい出てる…」
ビュッ
ビュルル♥

「はぁ…はぁ…未来ちゃんのスク水乳首に金玉のザーメン全部持ってかれた…」
「すごい…白いのこんなに…顔にまでかかっちゃったじゃない！」
ハァ
ハァ
コプ…
ドロ…

「チンポに押さえつけられたおっぱいの乳圧凄すぎ！
挟まれてるだけで射精しちゃいそうだわ！」
「陰部を擦りつけるだけで
なぜそんなに興奮しているんだ・・」
ギュ
ギュ

「ちょ、ちょっと待て
なぜ急に腰を振りだすんだ…んっ！」
んっ…
ズリュ
ズコ
「ビンビンな乳首と水着の圧迫やばすぎる！」
「パイズリも締まりすぎてチンコおかしくなるううう！」
ズルン
パン
パン

「うう！もう無理！
焔ちゃんザーメンいっぱい堪能してね！イクよ！」
「んんっ！」
んん
ビュビュ
ビュビュ
ビュル

「はぁ・・はぁ・・焔ちゃんのおっぱいマ〇コに中出ししちゃった・・」
「くっ・・なんだこの液体は・・・すごい悪臭がするぞ・・」
コプ
ヌル・・
ドロ・・

「うわ！チンポ全部埋まっちゃった！
手で押さえつけるけど痛くても我慢してね♪」
「くっ・・そんな所に挿入してなんになるんだ・・」

「手でめいっぱい抑えてるから締まり最高！
スベスベぷにぷにでマ○コに入れるより
全然気持ちいい！」
「ほら手も動かして！イッチニ！イッチニ！」
ぷにぷに
「痛っ！そんな握り潰すような力で握るな！
胸がおかしくなってしまう…」
シコ
シコ

「そろそろイクよ焔ちゃん！
キツキツ下乳マ〇コに中出しぃ！」

ドプッ！

「ちょ、ちょっとま…んあぁ！」

ブビュッ♥

ブビュ

「あぁ・・下乳良すぎ・・
最高のオナホおっぱいだわ・・」
ズブッ♥
ズボ
「はぁ・・はぁ・・やっと終わったか・・」

「焔ちゃんのおっぱいマ〇コ
上からいただきまーす♪」
「なぜこんな体位で…
早く済ませろ！」
ギュム
チルン♥

「おほっ♪焔ちゃんケツ穴見せながら
おっぱい犯してる！めっちゃ興奮するぅ！」
「んっんっ！谷間が擦れて熱い…」
パン！
プチ！
プチ！

「イクよ！焔ちゃん！
お腹に僕のホカホカザーメン出る！」
「んあ！…熱っ！」
ビュルル！
ビュッ

「はぁ・・はぁ・・パイズリオナホに搾り取られたぁ・・
焔ちゃんのエロ乳最高・・・」
「くっ・・」
ハァ
ハァ
ズル
ドロ・・・

「んほー！詠さんのデカパイ最高
乳首つまみながらおっぱいに挟まれてるだけで
いっちゃいそうだよ！」
「んふ♪殿方にこんなに喜んで貰えて光栄ですわ」
ギュッ
クニ
クリ

「はあああ！腰止まんない！
詠さんの亀頭コネコネパイズリやばすぎるぅ！」
「あはっ♪そんなに必死に腰を振ってよほど気持ちいいのですね？」
クニ
クリ
パン！
パン

「詠さんのエロおっぱいにパイズリしてもらって…イクっ！」
「きゃっ！すごい！」
ビュルビュッ
ドプ

「詠さんのパイズリ最高
亀頭攻められながらしごかれたら我慢とか無理だわ…」
「あは♪すごい…こんなに…
満足してもらえたようで何よりですわ♪」
ブプッ
ドロォ…

「馬乗りで詠さんのおっぱい犯しちゃってるよ！」
ピト
ギュッ
「馬乗りパイズリ？こ、こうですの？」

「おおお！乳圧やばい！
乳マ〇コ締り良すぎて
チンポめちゃくちゃになっちゃうぅ！」
「あん♪そんな必死にならなくても
おっぱいは逃げませんわよ」
ジコ
ジコ
ジコ
パンッ
パンッ

「詠さんのエロ乳マ〇コに中出ししちゃうよ！イクっ！」
ビュプ
「あっ、すゴいこんなに…」
ドプッ♥
ビュルル

「あはっ♪おっぱい犯されてザーメンだらけになってしまいましたわ♪」
「はぁ・・はぁ・・詠さんの乳マ○コに金玉のザーメン全部捧げちゃった・・」
ドロ・・
ダラ～
ズル・

「詠さんのデカ乳を独り占めできるなんて夢みたいだ…」

「んふ♪こんなにガチガチにして…ほら、おっぱいでしごいてもいいんですわよ？」

ピト♥

「うおっ！温かくてハリがあって
チンポ包み込まれちゃった・・」
「ほら、そのまま腰を振っておっぱいを
めちゃくちゃにしても構いませんのよ？」
ギュム♥
グイ

「あん♪すごい…ガチガチのチンポにおっぱい犯されちゃってますわ♪」

「あああ！詠さんのキツキツ乳マ○コ締まり良すぎて腰止まんないいい！」

パンッ

タパン！

ブチュ

「詠さんのおっぱいマ○コでイクっ！」
「あんっ いっぱい出てる♪」
ドプッ
ビュル！
ビュプ

「気持ち良すぎて腰に力入んなくなっちゃった・・」
コプ
ドロォ～・・
ピク
ピク
「んふ♪まだザーメンビュクビュク出てますわよ
チンポも痙攣して・・・
よほど気持ちよかったのですね♪」

「顔にまで届くほど量がザーメン射精して…
まっめちゃくちゃですわね♡」
ドロ…
ベタ…
「ふぅ…詠さんのおっぱいマ○コがあまりにも
気持ちよかったので金玉のザーメン
全部ぶちまけちゃいました」